陶器浩一研究室

©堀田貞雄

陶器 浩一（Toki Hirokazu）

1962 年　大阪府生まれ
1986 年　京都大学大学院修士課程修了
1986—2003 年　日建設計勤務
2003 年　滋賀県立大学環境科学部助教授
2006 年—　同　教授

設計だけではない
・実施してわかること
・チームワーク

現場での支え
・地元の大工さんの教え
・子供の発想
・差し入れ

人とのつながり
・見に来てくれた方
・施主さんの知人

↓

いろいろな人に頼り頼られる関係に、みんなで「ひとつ」のモノを創る

研究室の理念

ものづくり・ひとづくり・みらいづくり

—モノづくりを通じて、人と建築の未来を考える—

建築とは“人と人とをつなぐもの”であり、そこにあるもので如何に豊かな空間を築くかと言う知恵と工夫を積み重ねた“ものづくり”の結晶です。従来見出されていなかった素材の特性を解きほぐし新たな空間の可能性を追求すること。そして、ただ設計するだけでなくみんなで築き、その場で起こることを共有し、建築とは何かを考えることがこの研究室のテーマです。

扱う素材は多様ですが、自然素材である「木」「竹」「土」を用いたプロジェクトを多く行っています。具体的には東日本大震災の被災地で竹を用いた集会所の建設から始まった地域活動（地域に寄り添う）や、放置竹林を再生し地域の場を作る活動（自然に寄り添う）など、モノづくりを通じて地域に寄り添った活動を行っています。それらを通じて、今まで活かされていなかった素材の可能性を追求し、新たな建築空間の創造を行っています。

地域に寄り添う －被災地にて－

©堀田貞雄

自然に寄り添う －放置竹林の再生－

新しい和のかたち －三方格子－

©堀田貞雄

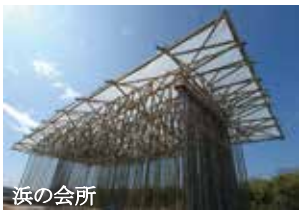
©堀田貞雄

自然竹

竹建築

“竹の会所”は津波被災地で学生と共に手作りで築いた、日本初の竹造建築である。「何故竹を持ちたのか？」それは、竹しかなかったからである。地域の竹1000本を伐り出し、自力で建設した。その後、定期的に地域を訪れ、学生たちと地域の子供たちの交流は今でも続いている。

竹の会所


浜の会所

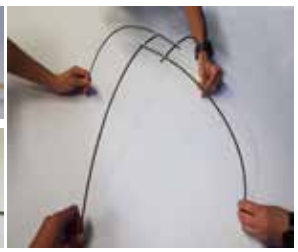
©畑田真雄

竹古竜

竹線門

BAMBOO HOUSE PROJECT

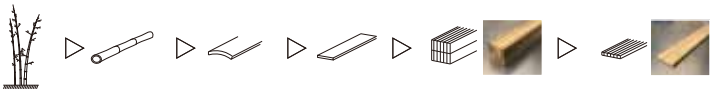
放置竹林の再生と新たな地域の場の創出を目的としたプロジェクト。竹林を整備しながら、それによって出た竹を用いて、薄暗く人も近寄らなかった竹林を自然を感じる新たな場に生まれ変わらせる。明るくなった場所には人々が集まり、皆で手入れをすることでコミュニティが生まれる。「生きる自然は地域を育む」がテーマである。



Bamboo Pavillion

竹建築の新たな提案

自然な竹を自然なまま構造体に用いた新たな空間の提案。竹のしなりや形、材料的特徴を研究し、「しなやかにしなる」竹の特徴を最大限活かした建築を創出する。研究室では竹の建築空間を提案し、実現に向けて接合部の開発を同時に行っている。

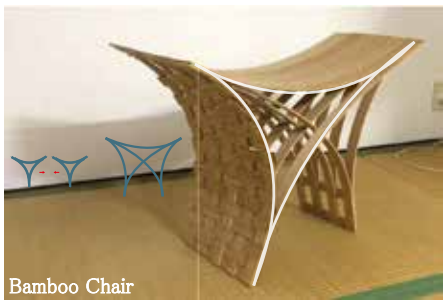


Bamboo Dome

竹挽板

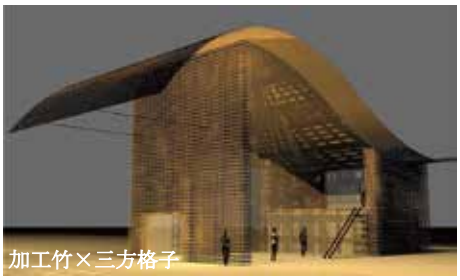
竹の特徴を活かした、ユニットを建築空間のスケールと家具のスケールに用いる。竹のしなりを活かした空間は独特の空間を作り出し、家具は竹のしなりによってクッション性の座り心地作り出す。

加工竹


Bamboo Chair

竹建築の新たな提案

竹は木の10倍の引張強度を持つ。加工した竹材で建築を構成することで、今までにないスケールの建築をつくることが出来る。極細材を組み合わせた架構と薄板材を用い滑らかな曲線を描く屋根で構成した空間は、繊細でしなやかな、新しい「和の空間」である。


加工竹×三方格子

三方格子

白鳥庭園

組み方

一定間隔に施された相欠きを1/2ずつずらして三方向に組み合わせることで組むことができ、同じシステムで連結させることで空間を構成する。

新しい和のかたち

金物を用いず手作業のみで組むことが可能であり、同じシステムで自由に空間を展開することが可能である。単純で複雑さをもち、日本の未来の原風景を映し出す。光とともに移ろう空間はさまざまな想像力をかきたててくれる。

CRAFT SAKE WEEK

IRONY ARK

潮風茶室